

## 芝居と PowerPoint によるプレゼンテーションを 組み合わせた利用者教育の試み

河原 茂記、紙子 沙弥香、日詰 千栄、枚田 眞紀子、山下 ユミ  
京都府立医科大学附属図書館

京都府立医科大学附属図書館で行っている利用者教育の一端をご紹介してみたい。

看護学科 1 年生を対象にした利用者教育では、従来導入部として図書館利用を紹介した 20 分程度のビデオを見てから、PowerPoint による十進分類法などの説明を行い、OPAC 及び Webcat の検索実習を行ってきた。しかし、ビデオの内容が古くなってきたことから、ビデオの内容を小演劇（つまり寸劇）で見せるという試みを 2009 年度に開始した。

ブールヴァール形式（フランス喜劇）というのは、主役である看護実習生を男性が仮装して演じるという、真面目ではあるが演技そのものに期待の落差を設け、面白さを醸し出すといった設定に由来している。このことによって、学生たちの意識を授業そのものに自然に集中させるという効果を狙ったもので、アンケートでは「お芝居が面白かった」「よく理解できた」という感想が寄せられたことから効果的であったと思われる。

2010 年度にはさらに小演劇の内容を本学仕様に改編し、小演劇と PowerPoint 画面を組み合わせるにより、閲覧室や書庫などの写真も盛り込んで、当館で図書や雑誌を書架まで探しに行くことをスクリーン上で体験できるもので、実際に実習で資料を取りに行く学生たちにとって、シミュレーションをしたあとに実体験できる組み立てとした。

入学して間もない学生にとって、図書館を敷居の低い気持ちで気軽に利用できるように意図した利用者教育として、例年 5～7 月くらいに実施しているが、3 年目の 2011 年度については、大教室の制約と実習コンピュータ数の充実等により構成を見直し、ブールヴァール形式を割愛した。この 3 年間の看護学科 1 年生に対する利用者教育の取り組みによりブールヴァール形式の魅力と弱点なども明らかになってきており、今後、更にどのようなプレゼンテーションにするのか検討していく必要があると思われる。

